

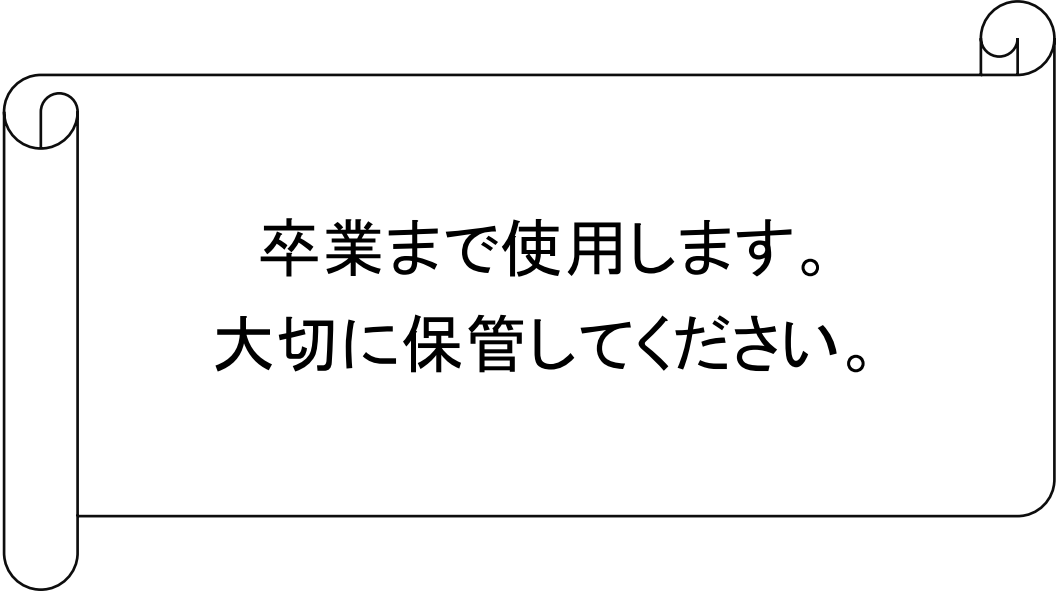
履修の手引き

令和 7 年度 入学生用

健康科学部 看護学科

Nagoya Aoi University

名古屋葵大学



卒業まで使用します。
大切に保管してください。

目次

《共通編》

I. はじめに	3
II. 学生支援センターの場所	3
III. 授業について	4
1. 授業の開講形態	4
2. 授業時間割	4
3. 授業・試験時間	4
4. 授業科目の種類	4
5. 休講	5
6. 補講	6
7. 出席確認	6
8. 欠席・遅刻・早退	7
9. オフィスアワー	7
10. ポータルサイト	7
11. 合理的配慮	7
IV. 履修について	8
1. 単位制度	8
2. 卒業要件	8
3. 履修登録単位数の上限設定(CAP 制)	8
4. 履修登録と手順	10
5. 履修登録の留意点	11
6. 特別履修届の提出について	11
7. 免許・資格の申請、取り消しについて	11
8. 履修登録時のチェックシート	12
9. シラバスの見方	13
10. 教育課程	14
11. 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』	14
12. 科目ナンバリングについて	15
13. 開放科目について	16
14. 単位互換制度	17
15. 海外留学	17
V. 試験について	18
1. 試験の種類と方法	18
2. 期末試験	18
3. 追試験	18
4. やむを得ない理由を証明する書類	18
5. 再試験	18
6. 追試験・再試験手続一覧	19
7. 受験資格	19
8. 受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)	19
9. 追試験・再試験の手続きの流れ	21

VI.成績評価について.....	22
1. 成績の評価・単位の認定.....	22
2. 成績の通知.....	22
3. 成績の問い合わせ.....	22
4. GPAについて.....	22
VII. 規程.....	23
VIII. 教務関係の用語集.....	23

《学科編》

1. ディプロマポリシー(学位授与の方針).....	24
2. カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針).....	25
3. 教育課程.....	27
全学共通科目.....	27
看護学科.....	28
(1)教育目的について.....	28
(2)授業科目について.....	29
(3)3年次への進級要件について.....	30
(4)教育課程について.....	31
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー.....	34
4. 免許・資格.....	39
(1)看護師.....	39
(2)保健師.....	40
履修モデル(看護師コース).....	43
履修モデル(保健師コース).....	45

I. はじめに

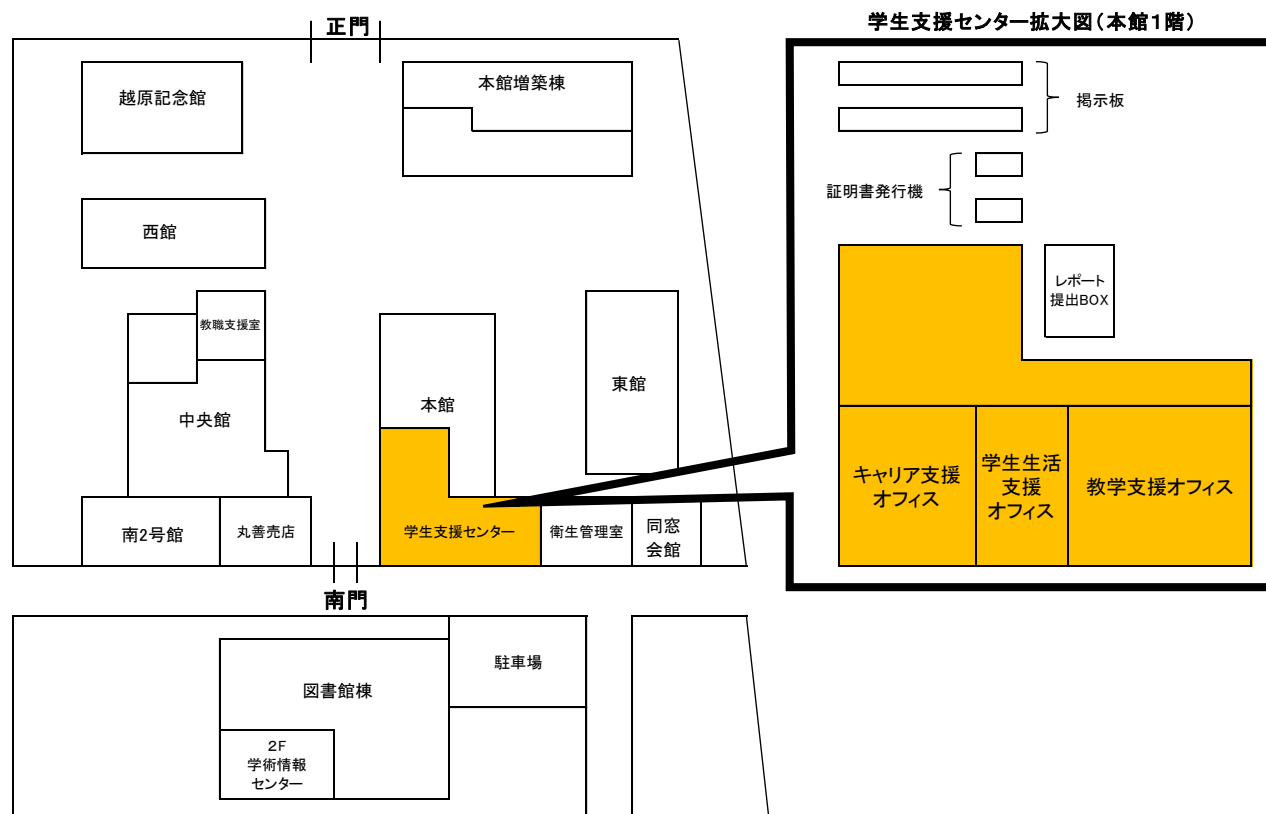
大学の勉学には、これまでの小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たなければならないということです。その際に、この『履修の手引き』が大きな役割を果たします。

《共通編》は、授業・履修・試験などの説明です。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。単位を修得するためには「履修登録」をした上で、授業に出席しなければなりません。履修登録には期日が決められている上、履修計画を立ててから手続きをする必要があります。この手引きをよく読んで、提出期限に遅れたり、手続き方法を間違えたりしないよう十分注意してください。提出が遅れると授業が受けられません。そのほか、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず熟読してください。

《学科編》には、教育課程(カリキュラム)が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画(シラバス)」とともに活用してください。免許や資格については、《学科編》の「4.免許・資格」で詳しく説明しています。

学生の皆さんは、この『履修の手引き』を卒業まで活用して、単位数が不足して卒業できないということのないように十分注意してください。また、不明点がある場合は、指導教員や学生支援センター・教学支援オフィスでたずねてください。

II. 学生支援センターの場所



III. 授業について

1. 授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講……………1 年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講……………原則として前期あるいは後期の半年間授業が行われます。
- 3) 集中講義……………上記の通年または半期開講科目が、教育上特別な理由があると認められる場合、あるいは特別の事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間で集中的に授業が行われます。

2. 授業時間割

ポータルサイトで授業時間割の確認ができます。また、本館1階掲示板にも掲示します。(事情により授業時間割・教室を変更したときも、ポータルサイト(教務掲示一覧)と掲示板でお知らせします。)

授業等の日程は、学事カレンダーとしてポータルサイトと大学 Web サイトに掲載しています。

ポータルサイト: TOP (HOME) > 年間予定 > 学事カレンダー

大学 Web サイト: HOME > 在学生の方へ > 年間スケジュール

3. 授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

1・2 限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0
3・4 限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0
5・6 限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
7・8 限	1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0
9・10 限	1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0

1・2・3 限	9 : 0 0 ~ 1 1 : 2 0
2・3・4 限	9 : 5 0 ~ 1 2 : 1 0
5・6・7 限	1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 2 0
7・8・9 限	1 4 : 4 0 ~ 1 7 : 0 0

大学の授業時間は、通常 45 分を「1 時間」の授業とみなし、「2 時間」(=90 分)の授業が基本となります。

4. 授業科目の種類

授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ

1 単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

講義科目(1 単位に必要な授業時間数は 15 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 8 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 4 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 30 回…通年科目

演習科目(1 単位に必要な授業時間数は 30 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 30 回…通年科目

実験・実習・実技科目(1 単位に必要な授業時間数は 45 時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ 1、2 に必要な授業時間数は 30 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 3 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 3 時間の授業) × 30 回…通年科目

学科によっては一部の科目で上記とは異なる授業時間数が設定されている場合があります。

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、各学科の「教育課程」の表を参照してください。

5. 休講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、本館 1 階掲示板に掲示およびポータルサイトから連絡します。
- 2) 休講掲示やポータルサイトからの連絡がなく、授業開始時刻から 30 分以上経過しても授業担当教員が現れない場合は、学生支援センター教学支援オフィスに連絡して、指示を受けてください。
- 3) 地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は次のとおり取り扱いします。

災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等		発表・発令等の時間	本学の講ずる措置
「南海トラフ地震臨時情報」の発表	「南海トラフ地震臨時情報（調査中・巨大地震注意・巨大地震警戒）」が発表された場合	発表された時刻	発表時点でそれ以降の授業は休講 授業再開などその後の対応は、大学 Web サイトやポータルサイトで案内します。
	「南海トラフ地震臨時情報（調査終了）」	午前 6 時現在 発表されている場合	平常通り授業
		午前 10 時現在 発表されている場合	午後から授業
「特別警報」または「暴風警報」の発令	名古屋市に発令された場合	午前 6 時現在 発令されている場合	午前中休講
		午前 10 時現在 発令されている場合	全日休講
避難指示（警戒レベル4）の発令	名古屋市瑞穂区汐路学区に発令された場合	午前 6 時現在 発令されている場合	午前中休講
		午前 10 時現在 発令されている場合	全日休講
交通ストライキ	名古屋市営の交通機関、名鉄、JR のいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合（その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する）	午前 6 時現在 ストが継続している場合	午前中休講
		午前 10 時現在 ストが継続している場合	全日休講
上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想されるときは、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。			

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。（授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センター教学支援オフィスで必要な手続きをすることにより欠席にはなりません。）

- ①名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ②名古屋市瑞穂区汐路学区以外の居住者の居住区域に避難指示(警戒レベル4)が発令された場合
- ③災害等により、交通機関が不通になった場合(計画運休含む)
- ④上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～④により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センター教学支援オフィスで所定の手続きをすれば、追試験を受験できます。

6. 補講

休講により規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次のいずれかの方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は、ポータルサイトの年間予定タブに掲載されている「学事カレンダー」で確認してください。
- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、本館 1 階掲示板に掲示し、ポータルサイトから連絡します。

※ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。メッセージ転送設定をすると、登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法是、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

＜ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > ポータルサイトの使い方

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf

7. 出席確認

講義室の出入口付近に、出席管理システムと連携した学生証を利用した認証のためのカードリーダーが設置されています。カードリーダーが設置されている教室では、学生証をかざして出席の認証を行ってください。

出席管理システムでは、出席状況の確認や欠席届を提出することができます。随時、出席状況を確認し、登録内容に誤りがあった場合は、授業担当教員に申し出てください。

出席管理システムと学生証による認証方法については、以下のマニュアルを確認してください。

＜出席管理システムへのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システム

URL: <https://attendance.cn-management.jp/asp/student/index.php>

＜出席管理システム操作マニュアルへのアクセス＞

ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システムマニュアル

URL: [https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(S\).pdf](https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(S).pdf)



＜出席管理システム(よくある質問)へのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システム(よくある質問)

URL: [https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(SQ&A\).pdf](https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(SQ&A).pdf)

- ◆ 学生証の認証による出席の確認は、授業開始 9 分前から可能です。
- ◆ 学生証を忘れた場合、または学生証の認証が正しくされなかった場合、授業開始前に授業担当教員に申し出てください。
- ◆ 学生証が登録されていない場合、カードリーダーにかざすと「登録がありません」とメッセージが流れます。
- ◆ 機器の不調や故障の場合は、学生支援センター教学支援オフィスに連絡してください。

8. 欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に準ずる P.18 参照)で授業を欠席する場合は、「欠席届」を授業担当教員に提出してください。「欠席届」は、出席管理システムから提出できます。学生支援センター教学支援オフィスで配布している欠席届の用紙に記入して提出することもできます。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは、次のとおりです。
 - ① 授業開始時間に遅れた者は、遅刻として取り扱います。
 - ② 授業終了まで受講していない者は、早退として取り扱います。
 - ③ 遅刻及び早退は、計 3 回をもって欠席 1 回とみなします。
 - ④ 1 回の授業時間の 3 分の 1 以上(講義・演習科目は 30 分以上、実験・実習科目は 45 分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

9. オフィスアワー

教員は学生からの様々な質問に応じるための時間「オフィスアワー」を設けています。オフィスアワーの時間帯には教員が研究室に在室し、授業内容やその他学修に関する様々な相談を受け付けています。各教員のオフィスアワーの設定時間は、教員によって異なりますので、「オフィスアワー一覧表」で確認してください。ポータルサイトの「オフィスアワー」からも確認できます。各教員の研究室の場所も記載されています。

＜オフィスアワー一覧表へのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > My 時間割 > オフィスアワー

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/office_hour/office_hour.pdf

10. ポータルサイト

ポータルサイトとは、大学からのお知らせや履修登録、成績発表など、大学生活を送る上で必要な様々な機能が集約されたサイトです。手続きなどの重要なお知らせを見落とさないように気を付けてください。履修登録漏れ、試験などに係る申請不備による不利益はすべて自己責任となりますので、ポータルサイトからの配信はこまめに確認しましょう。

＜ポータルサイトへのアクセス＞



大学 Web サイト > 在校生の方へ > 学生ポータルサイト

URL: <https://portal.nagoya-aoi.ac.jp/campusweb/top.do>

＜ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス＞

ポータルサイト: TOP (HOME) > ポータルサイトの使い方

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf



11. 合理的配慮

授業の受講や試験時に障がいサポート(合理的配慮)を希望する場合は、衛生管理室に申し出てください。ただし、対応可能な配慮は科目により異なります。

IV. 履修について

1. 単位制度

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1 単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて 45 時間の学修時間を必要とします。

2. 卒業要件

大学を卒業するためには、4 年以上在学し、学科ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、下表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

卒業に必要な単位数 ※括弧内の数字は、必修科目の単位数(内数)

【健康科学部】

学科	全学共通科目	健康科学部 共通科目	学科 専門科目	自由 選択科目	合計
健康栄養学科	18(7) 以上	76(51) 以上		30 以上	124(58) 以上
看護学科	13(9) 以上	112(110) 以上		—	125(119) 以上

自由選択科目

科目区分の制限はありません。各科目区分で定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位数で充足されます。

単位互換科目

単位互換制度を利用して取得した単位は、「自由選択科目」に算入されます。詳しくは、P.17「14.単位互換制度」を確認してください。

3. 履修登録単位数の上限設定(CAP 制)

各学期・年間の履修登録をする際に、履修登録単位数の上限を設定しています。履修登録単位数の上限を設定することを CAP 制といいます。

履修登録単位数の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1 単位を修得するにあたって必要な学修時間 45 時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

1) 全学部学科で上限単位数から除外する科目等

- ①入学前の既修得単位、大学・短大以外の教育施設等における学修により単位認定された科目
- ②全学共通科目:「建学のこころ」

- 2) 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目及び名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。
- 3) 学長が特に必要と認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。
- 4) 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。
- なお、年間で上限単位を定めている場合の、前期、後期ごとの履修登録単位数の配分については弾力的に扱います。学科の履修指導に従ってください。

学部	学科	履修登録の上限単位数								その他上限単位数から除外する科目
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
健康科学部	健康栄養学科	49		48		48		48		「国際健康栄養演習(海外研修)」、 教育の基礎的理解に関する科目等
	看護学科	48		49		48		48		

4. 履修登録と手順

具体的な日程は、オリエンテーションで配布する「Web 履修登録日程表」を参照してください。

オリエンテーション

- ・新入生オリエンテーション、在学学生オリエンテーションで履修登録の説明を聞きます。

履修計画

- ・「履修の手引き」や「シラバス」、「時間割表」を参照し、必修科目や資格取得に必要な科目を確認して、1年間の履修計画を立てます。
- ・1年間に履修できる単位数には上限があります。(履修の手引きP.9参照)
- ・科目によって、履修するための条件(前提科目)があります。そのため、資格取得に必要な専門科目を全て履修してから、全学共通科目の履修を計画しましょう。

Web履修登録

- ・履修計画をもとに、ポータルサイトで履修登録を行います。前期に後期科目の履修登録も行います。
- ・ポータルサイトで履修登録できない科目は、学生支援センター教学支援オフィスにある「特別履修届」に記入し、指導教員の確認を受けて提出します。
- ・履修登録期間は、受講する科目を検討する期間です。履修予定科目には初回の授業から出席してください。
- ・後期の履修登録期間は、後期科目のみ追加・削除が可能です。

資格申請

- ・取得を希望する免許・資格を申請します。
- ・資格申請をすることで、卒業学年時に資格取得見込判定の確認ができます。

一次抽選

- ・履修者数に定員のある科目では抽選により履修者を決めます。
- ・抽選科目の履修を希望する場合は、一次抽選日までに履修登録を行い、抽選結果を必ず確認してください。抽選結果が決まる前の授業にも出席してください。
- ・後期は、履修者数に余裕がある抽選科目の追加登録(先着順)が可能です。(後期は抽選を行いません。)
- ・教科書は返品ができないので、当選してから購入してください。

二次抽選

- ・履修者数に余裕がある科目の二次抽選に申し込むことができます。

履修確認

- ・履修計画とWeb履修登録した科目が合っているか、履修登録漏れがないか確認します。
- ・履修登録の修正が必要な場合は、「履修登録修正願」に記入し、指導教員の確認を受けて、学生支援センター教学支援オフィスへ提出します。

履修登録科目の確定

- ・履修登録が確定します。

5. 履修登録の留意点

- 1) 「履修の手引き」で卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、「授業計画(シラバス)」を熟読して1年間の履修計画を立ててください。

(注)履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合は、GPAに影響しますので注意してください。

- 2) 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。
- 3) 登録ミス、登録漏れのないように注意してください。
- 4) 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ずポータルサイトで受講可能か確認してください。
- 5) 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。
- 6) 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。
- 7) 授業科目については、履修できる学年(配当学年)が決まっています。下級学年に配当されている授業科目は履修できますが、上級学年に配当されている授業科目は履修できません。なお、配当学年において、卒業必修科目を修得できなかった場合、次年度以降の該当科目の履修登録については、学生支援センター教学支援オフィスでの手続きが必要となります。

6. 特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、「特別履修届」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。

「特別履修届」は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

- 1) 全学共通科目[必修科目]を他学科で下級履修する場合
- 2) 全学共通科目[外国語科目]を他学科で履修(あるいは下級履修)する場合
- 3) 専門科目を他クラスで履修(あるいは下級履修)する場合
- 4) 読替を要する科目を履修する場合

7. 免許・資格の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録は、履修登録期間中にポータルサイトの「資格申請・取消」から必ず行ってください。

また、卒業学年の後期履修登録期間に登録済の免許・資格を取り消す場合は、「免許・資格申請書」を提出してください。申請書は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

8. 履修登録時のチェックシート

履修登録および資格申請の追加・削除は、履修登録期間以外は原則認められません。そのため、履修登録時は、下のチェックシートを活用して、慎重に手続きを行ってください。

項目	内容	チェック欄			
		1年次	2年次	3年次	4年次
		前期 後期	前期 後期	前期 後期	前期 後期
① 履修計画	現在の単位修得状況、卒業要件、資格要件を確認して、1年間の履修計画を立てましたか？（後期では、前期成績を確認して計画の見直しをしましたか？） ※履修できる単位数には上限があります。（P.9 参照）	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
② 履修登録、 免許・資格申請	専門科目の選択科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	集中講義（実習関連・卒業研究などを含む）は登録しましたか？ ※特に、後期の集中講義科目は履修登録忘れが起きやすいです。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	全学共通科目および教職科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	希望する免許・資格の申請登録はしましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】進級・卒業および資格取得の見込判定結果を確認しましたか？ ※判定が「可」にならないと、見込証明書の発行はできません。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】前年度単位修得できなかった科目など、Web 履修登録ができなかった科目は、学生支援センター教学支援オフィスで申請しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
③ 申請内容確認	Web 履修登録完了後、ポータルサイトに「履修登録受付完了」メッセージが届きましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	抽選科目の結果（当落）を確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	履修登録修正期間に、ポータルサイトの「My 時間割」で申請内容が反映されているか確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】履修登録修正期間に「履修登録修正願」を提出した場合、後日「My 時間割」に申請内容が反映されていることを確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓

9. シラバスの見方

シラバスはポータルサイトからアクセスできます。授業を選択する時には、シラバスを熟読してください。

シラバス参照

更新履歴画面へ戻る

お気に入り追加する

科目名	建学のこころ
講義コード	
担当者	越原もゆる
学年	1年
対象学科・専攻	
クラス	
単位数	1
開講時期	前期
授業形態	講義
備考	

基本情報

科目名、授業担当教員、学年、対象学科、単位数、開講時期など

授業の目的と概要

科目ナンバリングと授業の教育目標を確認できます。

授業の到達目標

授業終了時に身に付く能力、何ができるようになるかを確認できます。またディプロマポリシーとの関連を確認できます。

授業計画

各回の授業内容を確認できます。授業担当者が複数人の場合、授業回ごとの担当教員が記載されています。

学修上の留意事項

授業を履修する上で必要な取り組みと、条件(前提科目)を確認できます。

授業外学修の指示

授業以外に必要な予習・復習の学修内容と時間が記載されています。

成績評価基準

成績評価の基準と割合が記載されています。

テキストと参考図書

- ・テキスト:
授業で使用する教科書です。購入してください。
- ・参考図書:
授業に関連する参考資料です。図書館に所蔵されています。

授業の目的と概要	UAG 000 L 1 01 Z (1) 本学創設者の生家に隣接する越原学舎で学ぶことにより、学園訓「親切」の意義と「建学の精神」を理解し、本学の教育理念・目的について認識を深める。 (2) 共同生活を通じて自己啓発するとともに、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、4年間の学修の目標を立て、その設計を確かなものとする。
授業の到達目標	【DP1】 本学創立の歴史や時代背景を理解し、学園訓「親切」の意味を深く考え、創立者の現代社会を生きる学生へのメッセージを掴み取ることができる。 【DP2】 共同生活を通じて自己啓発に努め、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、大学4年間の学修の目標を立てることができる。 【DP3】 主体的に自分の役割を果たすとともに、多様な価値観を持つ他の学生と協働することができる。
授業計画概要	岐阜県東白川村で越原(おっばら)学舎研修を行います。
授業計画	第1回 越原学舎研修のオリエンテーション
学修上の留意事項	・「建学のこころ」は、新入生オリエンテーションから始まる。 ・越原記念館巡覧や越原(おっばら)研修への準備段階でも主体的な参加が望まれる。 ・越原学舎では共同生活を楽しく進めるとともに、自己規律の育成に努めること。
授業外学修の指示	・越原学舎研修の前に、「美濃少女」「もえのぼる」「建学のこころ(越原研修のしおり)」等を熟読しておくこと。 ・1回の授業につき270分を基準として学修すること。
学修eポートフォリオ	学修eポートフォリオおよび教職「履修カルテ」の対象科目ではありません。
成績評価基準	【DP1】については、レポートの内容から評価する(20%)。 【DP2】については、レポートの内容から評価する(40%)。 【DP3】については、越原学舎研修準備ならびに研修時の主体性、協働性から評価する(40%)。 レポートは採点后、返却する。 各々の評価は総合的学習評価ルーブリックに基づいて行い、合計100%を満点としてS,A,B,C,D評価は大学の基準による。
テキスト	
テキスト(自由入力)	越原春子日誌「美濃少女」(みのおのとめ) 越原一郎(編) 学校法人越原学園 越原春子伝「もえのぼる」 南部 弘(著) 学校法人越原学園 「大学で学ぶということ」 名古屋英大
参考資料ファイル	建学のこころ成績評価基準.pdf
担当の実務経験	なし
参考図書	

更新履歴画面へ戻る

印刷

10. 教育課程

教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目と学部・学科共通科目、学科専門科目等に分けて編成されており、それぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目の区分には必修科目と選択科目および選択必修科目があり、体系的に修得できるように各年次に配当されています。授業科目を選択する場合は、系統図(カリキュラムツリー)をよく見て考えてください。例えば、科目間の矢印や、1 や 2 と番号が振られている科目を 2 から先に選択すること、また、講義の前に演習や実習を選択することは避けてください。

必修科目

教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目

教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目

選択必修科目

教育課程のうち、特定の科目の中から一定の単位を必ず修得しなければならない科目

- 上記のほか各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、卒業の要件に含まれない科目もありますが、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。

11. 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身に付けてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。詳しくは《学科編》で確認してください。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー(学位授与の方針)と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

12. 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは、学修の段階や順序等を英数字で表示することにより、教育課程の体系をわかりやすくし、履修登録時の目安とするために設定しています。科目ナンバリングのコードは、以下の構成となっています。

例)大学全学共通科目「日本国憲法」の場合

UA0 0 32 L 2 06 L - N2N3T1T3T4T5T6T7
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

①と②の間の「0」は予備コードです。

①学部・学科コード

学部・学科	コード	学部・学科	コード	学部・学科	コード
大学全学共通科目	UA0	健康科学部学科間共通科目	HB0	医療科学部学科間共通科目	MB0
生活環境学部生活環境学科	EE0	健康科学部健康栄養学科	HH0	医療科学部理学療法学科	MP0
生活環境学部教職課程	ET0	健康科学部看護学科	HN0	医療科学部作業療法学科	MO0
		健康科学部教職課程	HT0	児童教育学部児童教育学科	CC0

②分野コード(数字 2 文字)

図書館の分類表と同じ分類(日本十進分類法の 2 次区分表)を使用し、科目の分野を表現しています。

③授業形態

授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード
講義	L	演習	E	実験	M	実習	T	実技	P

④科目分類(数字またはアルファベット 1 文字)

各学科の教育課程の科目分類ごとに区分しています。全学共通科目は数字 1 文字、専門科目はアルファベット 1 文字です。

⑤授業識別番号(数字 2 文字)

科目分類と合わせて、授業を識別するための個別コードです。

⑥レベル

レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード
基礎的な内容	L	発展的な内容	M	卒論・実習系	H	その他	Z

⑦資格コード

資格取得に関係する科目には、資格コードが付与されています。

資格名称	コード	資格名称	コード	資格名称	コード
一級建築士受験資格	A1	保育士	H1	幼稚園教諭一種免許状	T1
二級建築士・インテリアプランナー受験資格	A2	秘書士	S1	幼稚園教諭二種免許状	T2
テキスタイルアドバイザー	C1	医療秘書実務士	S2	小学校教諭一種免許状	T3
フォーマルスペシャリストブロンズライセンス	C2	情報処理士	J1	中学校教諭一種免許状(国語)	T4
ドレメ式教員認定	C3	上級情報処理士	J2	中学校教諭一種免許状(家庭)	T5
栄養士免許証	E1	ビジネス実務士	J3	高等学校教諭一種免許状(家庭)	T6
管理栄養士国家試験受験資格	E2	上級ビジネス実務士	J4	栄養教諭一種免許状	T7
食品衛生監視員及び管理者任用資格	E3	看護師国家試験受験資格	N1	理学療法士国家試験受験資格	R1
フードコーディネーター	F1	保健師国家試験受験資格	N2	作業療法士国家試験受験資格	R2
フードスペシャリスト	F2	養護教諭二種免許状	N3		

13. 開放科目について

開放科目とは、資格の専門性をより高めるために、他学部・他学科の専門科目を開放し、資格に活かせる知識が取得できるよう、履修および単位修得可能にした科目です。

開放科目は以下のとおりです。

開講学科	授業科目	学年	開講期	形態	単位数
生活環境学科	調理学	1	前期	講義	2
	被服構成学	1	後期	講義	2
	住居管理学	3	前期	講義	2
理学療法学科	地域理学療法学	2	前期	講義	2
	理学療法治療学特論Ⅰ(健康増進・予防)	2	後期	講義	1
	理学療法治療学特論Ⅳ(脳機能)	3	前期	講義	1
理学療法学科 作業療法学科	解剖学Ⅰ	1	前期	講義	2
	生理学Ⅰ	1	前期	講義	2
	リハビリテーション概論	1	後期	講義	1
児童教育学科	コミュニケーション論	1	後期	講義	2
	日本文化概論	1	前期	講義	2

※上記科目の上級履修はできません。また、時間割編成の配慮はしません。開講期は変更になる可能性があります。

開講時期、時間割はポータルサイトの時間割で確認してください。対象科目には【開放】と記載されています。履修条件および手続きは以下のとおりです。

<対象学生>

1年生後期以降の学生(在学2年以上の場合は、前期から履修可能。)

<履修制限>

- 1)直前学期のGPAが2.0以上
- 2)履修上限単位数に含まれます。(「自由選択科目」のない学科を除く)

<修得単位>

修得した単位は、「自由選択科目」に算入されます。また、成績評価はGPAの算出対象となります。(「自由選択科目」がない学科は、卒業要件単位には含まれませんが、履修は可能です。)

<手続き方法等>

上記科目の履修を希望する場合は、履修希望科目の開講期の履修登録期間に、「開放科目履修願」に記入して、学生支援センター教学支援オフィスへ提出してください。

<履修の可否>

手続き後、所属学科の確認と開放科目を開講している学部の教授会で審議されます。審議結果は、指導教員から前期5月下旬、後期10月下旬に連絡があります。(審議結果の連絡があるまで、授業は出席してください。)

14. 単位互換制度

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋葵大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

1) 名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位修得が可能です。下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

①名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

授業科目	授業形態	単位数
簿記演習 3	演習	1

②履修時期

1 年生後期

③単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の自由選択科目の単位数として算入されます。

④履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4 月第 2 木曜日まで

後期科目：9 月第 2 木曜日まで

2) 愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位修得が可能です。詳しくは、本館 1 階掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認して手続きしてください。

URL: <https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/>

15. 海外留学

留学先で修得した授業科目の単位は 60 単位を上限として、本学で修得した単位として認められます。単位の認定を希望する場合は、留学前に学科の先生に相談して指導を受けてください。

海外留学については、学生生活の手引き「翔」または、大学 Web サイトの「留学制度・奨学金制度」を参照してください。海外交流室または学生支援センター学生生活支援オフィスに相談することもできます。

<留学制度・奨学金制度へのアクセス>



大学 Web サイト>在校生の方へ>留学制度・奨学金制度

URL: <https://www.nagoya-aoi.ac.jp/students/ryugaku.php>

V. 試験について

1. 試験の種類と方法

試験の種類には、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

2. 期末試験

1) 期末試験は、前期末に行うものを前期試験、後期末に行うものを後期試験といいます。

2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

3. 追試験

1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。

① 試験時間割に掲載された筆記試験を実施した授業科目

② 期末試験に代えて授業担当教員が随時に行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目

2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。

3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。

4) 追試験の受験は、欠席理由が「4. やむを得ない理由を証明する書類」の項目に記載されている欠席理由のいずれかに該当し、当該理由を証明するに足る書類の提出が必要です。①から⑦は願い出の受理により追試験の受験が認められますが、⑧は教授会および学長が許可した場合に受験が認められます。

4. やむを得ない理由を証明する書類

欠席理由		提出書類
①	親族の危篤、死亡	理由を証明する書類または写し
②	不慮の事故または災害	事故等を証明する書類
③	病気または負傷	医療機関発行の診断書
④	公共交通機関の事故または遅延	事故又は遅延証明書
⑤	学則第 14 条に定める資格を取得するために必要な校外実習	証明書不要
⑥	就職試験(会社訪問は除く)の受験	本学所定の受験証明書
⑦	期末試験受験科目の実施日時の重複	本学所定の試験重複届
⑧	その他①から⑦に準ずるものとして学長が認めたもの	理由を証明する書類

5. 再試験

1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期および通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。

再試験期間は、学事カレンダーで確認できます。なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。

2) 再試験を受験するためには、所定の手続きが必要です。

- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験と再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目の場合は、前期・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。
- 4) 校外実習(教育実習・臨地実習など)が不合格となった場合の再試験は実施しません。

6. 追試験・再試験手続一覧

	追試験		再試験	追試験・再試験で 不合格科目の再試験 (4年生のみ)
	欠席理由①～⑦	欠席理由 ⑧		
提出書類	試験欠席届＋証明書類＋追試験申込書		再試験申込書＋ 再試験願出書	再試験申込書＋ 再試験願出書
提出期限	指定された期日 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡) 追試験申込書は 受験許可後に提出	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)
出願科目数	上限なし		上限なし	前・後期それぞれ 1科目
提出先	学生支援センター・教学支援オフィス			
受験手数料	1科目につき 1,000 円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要)		1科目につき 2,000 円	1科目につき 2,000 円

7. 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 履修登録をしていない授業科目。
- 当該授業科目の規定授業時間数(半期8回、15回、通年30回)の3分の2以上出席していない者。
- 学生証を所持していない者。
- 試験開始後15分以上遅刻した者。
- その他、教授会において受験資格がないと認められた場合。

8. 受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

<受験態度>

受験の際は、終始公正な態度を保ち、少しでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

<監督者の指示の遵守>

試験室においては、常に監督者の指示に従う。
指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

<学生証の提示>

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターにおいて仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料 1,000 円が必要となる。
また、学生証を紛失した場合、願い出れば当日中に再発行される。(手数料 1,000 円が必要)

<不正行為>

受験の際、万一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第 46 条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

<所持品の扱い>

試験中は学生証、筆記用具(特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ)、監督者が許可したもの以外は机上に置かない。その他の手荷物も机の中に入れないで、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

<参照許可物件>

問題用紙に参照許可物件(テキスト、ノート、辞書等)が明示されている場合のみ、参照が許可される。

<遅刻>

遅刻は試験開始後 15 分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。
なお、遅刻により受験できなかった科目は欠席となる。

<退室>

試験開始後 30 分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

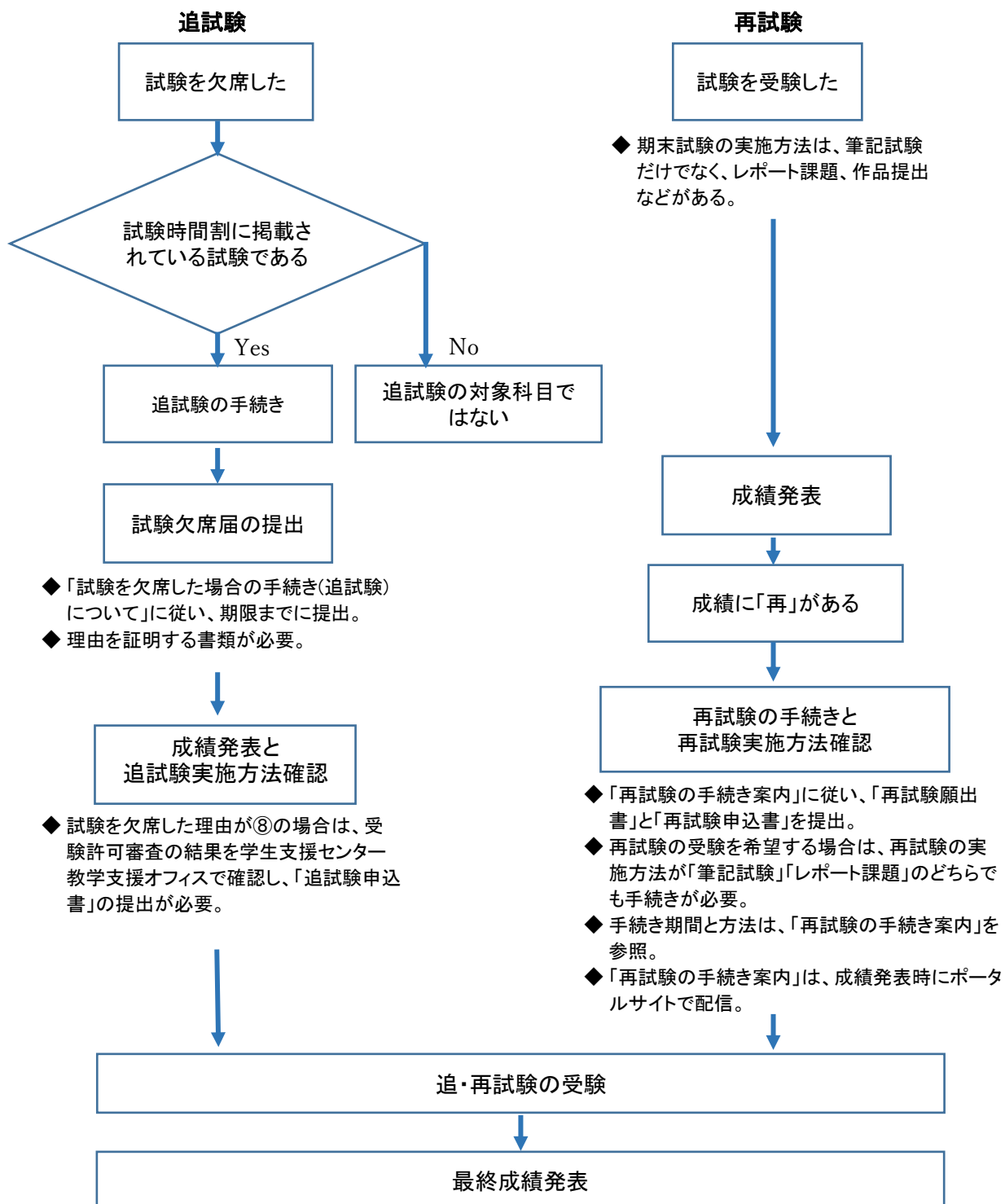
<再入室の禁止>

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

<答案用紙>

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや、白紙のものも提出する。

9. 追試験・再試験の手続きの流れ



◆卒業学年に限り、追再試の再試(前後期各1科目:必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目に限る)を実施する場合がある。最終成績発表日に手続きが必要。

◆「試験規程」は、ポータルサイトの学内リンクタブの「規程一覧」を参照。

VI. 成績評価について

1. 成績の評価・単位の認定

授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、S, A, B, C, 不とし、C 以上を合格として当該授業科目の単位を認定します。なお、100 点満点に換算した点数の評価基準は、次のとおりとします。

ただし、当該学期学費未納者については、学費完納まで単位認定を保留します。

成績評価基準

合 格	100 点～90 点	S
	89 点～80 点	A
	79 点～70 点	B
	69 点～60 点	C
不合格	60 点未満	不
不合格 (再試験)	60 点未満	再

学生が期末筆記試験を欠席し、追試験の手続きをした場合

(追試験)

合 格	100 点～90 点	S
	89 点～80 点	A
	79 点～70 点	B
	69 点～60 点	C
不合格	60 点未満	不
欠 席		不

(再試験)

合 格	60 点以上	C
不合格	60 点未満	不
欠 席		不

単位
認定

単位
不認定



※

—再試験—

—追試験—

※卒業年次学生を対象とする

失 格	失
-----	---

— 受験資格喪失(原則として規定授業時間数の 2/3 以上出席していない者)

認定単位	認
------	---

— 他の大学等において修得した単位、編入学生等の認定単位

2. 成績の通知

期末試験及び追・再試験の結果は、各学期の成績発表日にポータルサイトの成績照会で各自確認してください。既修得単位科目の成績(成績の累算)も成績照会で確認できます。

3. 成績の問い合わせ

成績についての質問がある場合は、成績発表後 3 日以内(土・日・祝日除く)に学生支援センター教学支援オフィスに申し出て、「成績評価についての質問」に質問事項を記入し提出してください。

4. GPAについて

GPAとは、Grade Point Average(グレード・ポイント・アベレージ)の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント(GP×単位数)の合計を履修登録した総単位数で除した 1 単位あたりの成績平均値のことです。GPAを知ることで、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画が適切に立てられます。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA評価平均が下位 25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準
- 5) 成績上位者の表彰の選抜基準
- 6) 退学勧告を行う判定基準

<GP(グレード・ポイント)>

最終成績評価(S:4、A:3、B:2、C:1、不認定:0、失格:0、認定:ー)

<不合格科目等の取り扱い>

成績評価が不合格の科目、失格となった科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外になります。

<GPAの算出式>

各科目の成績評価を成績値(GP)に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

VII. 規程

学則や各種規程は、ポータルサイトに掲載しています。

<規程一覧へのアクセス>



ポータルサイト: TOP(HOME) > 学内リンク > 規程一覧

URL: <https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/kitei/kitei-index.htm>

VIII. 教務関係の用語集

<教務関係用語集へのアクセス>



ポータルサイト: TOP(HOME) > 学内リンク > 教務関係の用語集

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/rishuyoko/kyomu_yogo.pdf

健康科学部

1. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

健康科学部

健康科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学位授与の規定では、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付けた専門的職業人としての使命感や責任感が持てる人であることが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

看護学科

本学科所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身に付けた学生に卒業を認定し、学士(看護学)を授与します。

- 1) 知識・技術: 看護に必要な基礎的知識を身に付け、看護分野における専門的知識・技術を広く学修することができる。
 - (1) 看護について科学的根拠に基づく正しい知識・技術を修得し、保健・医療・福祉・教育等の場において、それらの知識・技術を活かすことができる。
 - (2) 豊かな人間性をもち、医療専門職者に必要とされる「人間および生命の尊厳」に関する知識・技術を修得することができる。
- 2) 思考・判断・表現: 科学的思考力のもと、効果的に看護を実践するため、人々の健康に関する課題を把握し、問題を解決するための思考力と判断力を身につけ、自分の考えを表現する能力を身に付けることができる。
 - (1) 看護の対象となる人を全人的にとらえ、科学的・論理的思考に基づいて判断し、人々の健康に関する課題を解決することができる。
 - (2) 自己理解を深め、基本的な表現力を獲得し、他者とのコミュニケーションを図ることができる。
- 3) 主体性・多様性・協働性: 保健・医療・福祉・看護に関する総合的な視野をもち、専門的知識や技術を獲得するために主体的に学修を続け、多面的な観点から問題に取り組み、保健医療チームの中で協働することができる。
 - (1) 地域的・国際的動向に関心をもって学修を続け、保健・医療・福祉・看護の課題に対して主体的に取り組むことができる。
 - (2) 複雑化した健康問題に対して、多様な角度から情報を収集・分析し、多面的な観点から健康問題を解決できる。
 - (3) 保健・医療チームの中で多職種と協働的にコミュニケーションをとり、専門職として責任ある行動がとれる。

2. カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

健康科学部

健康科学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人を育成する」ことを目的としています。これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを医療科学部・生活環境学部・児童教育学部と可能な限り共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。第二に、2 学科それぞれに多くの専門科目を設置して、体系的な教育課程を実現しつつ、有機的連携を保ちます。健康栄養学科においては、将来管理栄養士として活躍できる人材を養成するために必要な専門科目を多く設置し、国家試験合格を支援しています。看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。学部全体(学士課程)では、活きたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

看護学科

1. 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーに掲げた目標の達成に向け、看護学の領域はもとより、特に、医療系職能育成における専門知識と技術、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技術を修得し、多職種とも連携できる看護専門職者としての能力を育成します。

また、教育課程においては、本学の強みである“人の生きる力を創る幼児教育”と“人の生きる力の基本を創る『食と生活』の健康栄養学”の異分野融合による特色ある教育を目指します。

- 1) 大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚と総合的に“人”“生活”を捉え多面的なケアを担う基礎をめざします。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるように科目を配当します。
- 2) 学園訓「親切」の心をこれまでの 100 年とこれからの 100 年をつなぐ役割を担い、その心を未来に橋渡しするという考え方を基盤として、「人間」「環境」「食」「福祉」「健康」「看護」の概念のもとに「看護学」を構築します。
- 3) 医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を身に付けることをねらいとし、「健康と食」「健康と心」「健康と支援」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復促進」の 5 領域で体系化しています。この科目内では、本学の特色である『食と生活』に焦点を当てた、噛む(『食=噛む』)ことと脳の活性化や、噛む力を維持するための口腔ケアなども学ぶ授業展開とします。
- 4) 健康栄養学科との連携を図るため、二段階で学科間連携科目を設置します。第一段階では「健康の基盤は栄養であること」を重視した基礎的な必修科目群を開講し、第二段階では臨床的観点から栄養学を学修するための学科間連携科目群を選択できるように環境を整えます。

2. 教育課程の編成と特色

1) セメスター制と GPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直すことが可能となり、GPA(Grade Point Average)を活用した学生指導を充実させることができます。

2) 学修成果測定

- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
- (2) 学修ポートフォリオによる学修成果の蓄積を行っていきます。
- (3) 年次で学科が必要と定めている教科目の修得結果が、学科の定める規準を満たし、3 年次以降の教科目を履修する基礎レベルに達しているかを確認する進級基準を設けています。
- (4) 看護師が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技術に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評を行います。

3) 学修環境

- (1) 看護師・保健師の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2) 授業担当者とクラス担任の緊密な連絡と情報交換により、きめ細かい指導を行います。
- (3) 授業以外における看護基礎技術のきめ細かい指導を行います。
- (4) 授業時間以外の基礎・成人看護学実習室の開放を行います。

3.教育課程

全学共通科目

■健康科学部開講科目

授業科目		単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	栄養教諭一種	保健師	備考
		必修	選択		1年		2年		3年		4年					
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
人間形成科目	建学のこころ	1		講義									1			
	ジェンダー論		2	講義									2			
	キャリア入門		2	講義									2			
一般教育科目	哲学の方法		2	講義									2			
	心のしくみ		2	講義									2			
	文学の表現と鑑賞		2	講義									2			
	歴史に学ぶ		2	講義									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
	国際事情		2	講義									2			
	日本国憲法		2	講義									2	◎	◎	健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年
	くらしの経済		2	講義									2			
	生活と地理		2	講義									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は1・2年
	数学の世界		2	講義									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
	一般化学		2	講義									2			
	生命のしくみ		2	講義									2			
	生活の物理		2	講義									2			健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年
	地球環境と人間		2	講義									2			健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年
	初年次セミナー	2		講義									2			
芸術科目	音楽		1	演習									2			
	美術		1	演習									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
	書道		1	演習									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
外国語科目	Basic English 1	1		演習									2	◎	◎	
	Basic English 2	1		演習									2	◎	◎	
	Advanced English 1		1	演習									2			
	Advanced English 2		1	演習									2			
	総合英語A－1	1		演習									2	◎	◎	
	総合英語A－2	1		演習									2	◎	◎	
	総合英語B－1		1	演習									2			
	総合英語B－2		1	演習									2			
	初級フランス語1		1	演習									2			「初級フランス語2」または「初級中国語2」は、「初級中国語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」または「初級中国語1」が
	初級フランス語2		1	演習									2			「失格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。「中級中国語2」は履修できません。「中級フランス語」「中級中国語」は「初級フランス語2」「初級中国語2」の単位を取得していないと履修できません。
	中級フランス語		1	演習									2			
	初級中国語1		1	演習									2			
初級中国語2		1	演習									2				
中級中国語		1	演習									2				
情報・表現科目	情報処理演習1		1	演習									2	◎	◎	看護学科は必修
	情報処理演習2		1	演習									2	◎	◎	看護学科は必修
	日本語表現法1		1	演習									2			
	日本語表現法2		1	演習									2			
健康・体育科目	健康科学		2	講義									2			
	スポーツ1		1	実技									2	◎	◎	
	スポーツ2		1	実技									2	◎	◎	

(注) 1.栄養教諭一種免許状、保健師国家試験受験資格(栄養教諭二種免許状に必要な科目を含む)を取得するためには、

◎印(必修)の単位を取得すること。

2.開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

看護学科

(1)教育目的について

健康栄養学科との連携・融合のメリットを活かした高い教養、高い専門知識とともに、豊かな感性・高い倫理観を有し、多職種協働のもと“身近に寄り添い・行き届く看護”を実践できる人材の育成を目的とします。

(2)授業科目について

健康科学部の教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)は、学園訓である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人を育成する」ことを目的としています。

看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置、活きたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

【全学共通科目(必修8科目、選択33科目:講義18科目、演習21科目、実技2科目)】

大学での学びの導入として、初年次セミナー(全学共通科目)を1年次において履修し、学ぶための姿勢と、総合的に“人”“生活”“科学”“看護”を捉え多元的なケアを担う基礎を育て、学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚をめざします。また、学士力育成を目指し、人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報・表現、体育・健康などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるよう配置しています。

【学部共通科目(必修1科目、選択4科目:講義5科目)】

理論と実践の一体的な専門教育をめざしたカリキュラムの一環として、健康栄養学科との連携のもと学部共通科目(基礎関連科目)を設置します。「健康科学概論(必修)」では、両学科の教員によるオムニバスの講義として、共通の基盤となる知識を講義するとともに、両学科が目指す医療人としての将来像を共有します。

【看護基礎科目(必修20科目、選択3科目:講義20科目、講義(演習含む)2科目、演習1科目)】

専門基礎分野群は、「健康と食」「健康と心」「健康と支援」の健康を主軸とした3領域と、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復促進」の計5領域で構成します。専門基礎分野の知識を活用しながら、専門分野を学修する上で欠くことのできない基礎的知識と崇高なヒューマニティを形成し、医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を身に付けることをねらいとした科目を配当しています。看護学科の特色としては、口腔機能が全身に与える影響(特に認知機能やストレス反応、脂質代謝、運動機能など)を理解し、口腔機能維持を目的とした口腔ケアを実践するための基礎的知識を習得する科目として「健康と食」の領域に「口腔健康管理学」を位置づけています。

【専門科目】

対象の如何にかかわらず、医療機関・在宅や地域社会の様々な場において必要とされる保健・看護活動に必要な看護知識と技術を学びます。地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を視点におき、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を学修します。

①基礎看護学(必修10科目:講義3科目、講義(演習含む)1科目、演習4科目、実習2科目)

1年次から専門科目を開講し、学年進行とともに看護学の4つのメタパラダイム概念を関連させながら単純から複雑に、かつ看護学の対象である人間の成長・発達、療養環境に応じた看護を拡大しながら学修できるよ

うに科目を配置し、看護学の理解と技術の修得をめざしています。看護学演習科目は、最新の機器類を備えた学内環境での、対象者の健康状態・生活状態を適切に把握する技術や看護実践過程の具体的展開を行い、また、LTD(Learning Through Discussion: 話し合い学習法)による思考中心の学習法を取り入れ、学生の人間関係を保つ力を育成します。

②地域・在宅看護学(必修7科目:講義3科目、演習2科目、実習2科目)では、在宅看護の歴史や社会的背景、法制度を理解したうえで、在宅看護の目的や療養者やその家族の特徴を理解するための基礎的な知識を学びます。在宅で過ごす療養者が疾病を抱えながらも、その人らしい生き方を続けていくために、求められている看護の役割について学修します。

③成人看護学(必修7科目:講義3科目、演習2科目、実習2科目)

青年期から向老期にあたる幅広い年代の『成人期を生きる人々』を対象とした看護を探究します。看護の対象には、健康な人から終末期にある人まで、あらゆる病期、あらゆる場で暮らす人が含まれます。急性・慢性看護学においては、急性的、慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、生涯にわたって生活習慣や生活様式の調整・再構築を必要としている人とその家族の特徴について学びます。

④小児看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)

変化する社会の中で成長・発達する子どもとその特徴を理解し、子どもの健やかな成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を全人的に学びます。子どもの基本的人権を守り、小児が一人の人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援の在り方を学びます。

⑤母性看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)

母性看護の概念・理念、リプロダクティブヘルス/ライツの概念、セクシャリティーの概念を明確にします。また、ウイメンズヘルスの視点から、ライフサイクル各期の健康上の特徴、生涯にわたる健康の維持・増進、健康問題を学ぶとともに、必要な母性看護の役割・支援について理解するとともに、母性看護の対象者を取り巻く社会の変遷と現状、関係法規、周産期医療の現状について学びます。

⑥老年看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)

老年期における身体的特徴、社会的背景および価値観などを全人的に理解します。また、老いを生きるとはどのようなことなのか、健やかに老い、その人らしい暮らしへの看護について学修します。さらに、老年者への福祉対策の動向とその課題を通して、在宅・施設におけるケアと家族介護者への支援について学修します。

⑦精神看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)

精神疾患や精神障がいを持ちながら病院・地域で生活する人々の全体像を理解し、個別性を重視した効果的な看護を提供するための実際を学びます。対象者と関係を築きながら、対象者となる人のその悩苦や生活のしづらさを深く理解し、精神看護が対象者との信頼関係や相互作用を基盤に進んでいくことをふまえながら、セルフケア能力の維持・向上を目指して看護を展開します。

⑧看護の統合と実践(必修7科目、選択5科目:講義10科目、演習1科目、実習1科目)

専門性が高く、個々の医療に対し臨機応変に対応・解決しなければならない能力を育むために、「医療安全」「災害看護論」「看護管理」を必修科目として履修します。また、看護を実践する際に浮上する問題点を多方面

からアプローチし、方法論のゴールを見出すことができる能力を養う科目として「看護学研究方法論」「看護学研究ゼミナール(卒論)」「健康科学特論」を配置します。さらに、「チーム医療連携論」「家族看護論」「緩和ケア論」「認知症看護援助論」の4科目は、将来を見据えた学問として、選択科目に掲げています。

⑨学科間連携科目(選択3科目中2科目履修:講義3科目)

健康栄養学科との連携を活かして、看護の領域においてその修得が強みとなるように、ライフステージ別の栄養ケア、マネジメントと、臨床における栄養管理法について健康栄養学科の教員による講義を配置します。これらの講義を通じて、乳児の離乳食から高齢者の嚥下食に至る、望ましい食のあり方と、疾患別治療食の知識の理解を深めます。

看護学科 学科間連携科目一覧

学科	授業科目	授業形態	単位数
健康栄養学科	臨床栄養学	講義	1単位
	ライフステージ栄養学1	講義	1単位
	ライフステージ栄養学2	講義	1単位

⑩公衆衛生看護学(選択10科目:講義4科目、演習4科目、実習2科目)

公衆衛生看護学は、保健師の活動ならびに公衆衛生活動を理解する科目として「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」「公衆衛生看護活動展開論Ⅱ」「公衆衛生看護援助論Ⅰ」「公衆衛生看護援助論Ⅱ」「公衆衛生看護援助論Ⅲ」「公衆衛生看護援助論Ⅳ」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」の科目を設定します。

公衆衛生看護学では、地域で生活する様々な健康レベル、発達段階にある人々が、自らの健康課題・問題を捉え、主体的に解決し、生活者として行動できるように援助していく視点を養います。地域で生活する人々を対象として展開される公衆衛生看護活動に必要となる基礎的知識を習得します。対象の特性別に根拠となる動向、法・制度、社会資源、健康課題の解決方法などを理解し、特に、現代社会における主要な健康課題・問題について住民を対象とした地域づくりを目指した支援方法を具体的に考え、理解を深めます。

(3)3年次への進級要件について

2年次後期までに配当された必修科目の単位がすべて修得できない場合は、3年次への進級を「不可」とし、2年次に原級留め置きとします。

(4)教育課程について

看護学科 専門科目																		
授業科目			単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	看護師	保健師	履修コース	
			必修	選択		1年		2年		3年		4年						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
(学部共通科目)	健康科学概論		2		講義									2	○	○		
	基礎化学(有機化学を含む)			2	講義									2	△	△		
	基礎生物学			2	講義									2	△	△		
	情報処理概論			2	講義									2	△	△		
	基礎統計処理			2	講義									2	△	○		
看護基礎科目	健康と食	口腔健康管理学	2		講義									2	○	○		
		栄養学(生化学を含む)	2		講義									2	○	○		
		食と健康	2		講義									2	○	○		
		栄養教育論	1		演習									2	○	○		
	健康と心	人間関係論	2		講義									2	○	○		
		コミュニケーション論	2		講義									2	○	○		
		臨床心理学	2		講義									2	○	○		
	健康と支援	生活と環境		2	講義									2				
		女性の健康科学	1		講義									1	○	○		
		社会福祉	2		講義									2	○	○		
		公衆衛生学	2		講義									2	○	○		
		保健統計学	2		講義									2	○	○		
		疫学		2	講義									2		○		
		医療関係法	1		講義									1	○	○		
		保健医療福祉行政論		3	講義									3		○		
	機能と人体の構造	人体構造・人体機能学Ⅰ	2		講義									4	○	○	演習含む	
		人体構造・人体機能学Ⅱ	2		講義									4	○	○	演習含む	
	疾病の成り立ちと回復促進	病理/感染症学	2		講義									2	○	○		
		臨床薬理学	2		講義									2	○	○		
		病態と治療(疾病論)Ⅰ 循環・呼吸・消化	2		講義									2	○	○		
		病態と治療(疾病論)Ⅱ 腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血	2		講義									2	○	○		
		病態と治療(疾病論)Ⅲ 脳神経・運動・リハ・放射	2		講義									2	○	○		
		病態と治療(疾病論)Ⅳ 産婦・小児・精神	2		講義									2	○	○		
	専門科目	基礎看護学	看護学概論	2		講義									2	○	○	
			看護倫理・生命倫理Ⅰ	1		講義									1	○	○	
			看護倫理・生命倫理Ⅱ	1		講義									1	○	○	
			フィジカルアセスメント(看護生理学を含む)	1		演習									2	○	○	
			看護過程	2		講義									2	○	○	演習含む
基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術			1		演習									2	○	○		
基礎看護技術演習Ⅱ 日常生活援助技術			2		演習									4	○	○		
基礎看護技術演習Ⅲ 診療援助技術			1		演習									2	○	○		
基礎看護学実習Ⅰ			1		実習									-	○	○		
基礎看護学実習Ⅱ		3		実習									-	○	○			
地域・在宅看護学		地域看護学概論	1		講義									1	○	○		
		保健行動論	1		講義									1	○	○		
		在宅看護概論	2		講義									2	○	○		
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	1		演習									2	○	○		
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1		演習									2	○	○			
	地域ふれあい実習	1		実習									-	○	○			
	地域・在宅看護実習	3		実習									-	○	○			

授業科目			単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	履修コース	
			必修	選択		1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		看護師	保健師
専門科目	成人看護学	成人看護学概論	2		講義								2	○	○	
		成人慢性期看護援助論Ⅰ	2		講義								2	○	○	
		成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		演習								2	○	○	
		成人急性期看護援助論Ⅰ	2		講義								2	○	○	
		成人急性期看護援助論Ⅱ	1		演習								2	○	○	
		成人慢性期看護学実習	2		実習								－	○	○	
		成人急性期看護学実習	2		実習								－	○	○	
	小児看護学	小児看護学概論	2		講義								2	○	○	
		小児看護援助論Ⅰ	1		演習								2	○	○	
		小児看護援助論Ⅱ	1		演習								2	○	○	
		小児看護学実習	2		実習								－	○	○	
	母性看護学	母性看護学概論	2		講義								2	○	○	
		母性看護援助論Ⅰ	1		演習								2	○	○	
		母性看護援助論Ⅱ	1		演習								2	○	○	
		母性看護学実習	2		実習								－	○	○	
	老年看護学	老年看護学概論	2		講義								2	○	○	
		老年看護援助論Ⅰ	1		演習								2	○	○	
		老年看護援助論Ⅱ	1		演習								2	○	○	
		老年看護学実習	2		実習								－	○	○	
	精神看護学	精神看護学概論	2		講義								2	○	○	
		精神看護援助論Ⅰ	1		演習								2	○	○	
		精神看護援助論Ⅱ	1		演習								2	○	○	
		精神看護学実習	2		実習								－	○	○	
	看護の統合と実践	看護管理	1		講義								1	○	○	
		医療安全	1		講義								1	○	○	
		緩和ケア論		1	講義								1			
		災害看護論	1		講義								1	○	○	
		国際看護論		1	講義								1			
認知症看護援助論			1	講義								1		○		
家族看護論			1	講義								1				
チーム医療連携論			1	講義								1				
看護学研究方法論		1		講義								1	○	○		
看護学研究ゼミナール(卒論)		2		演習								2	○	○		
健康科学特論		1		講義								1	○	○		
看護の統合と実践実習		3		実習								－	○	○		
連携科目	臨床栄養学		1	講義								1	☆	☆	2単位以上 選択必修	
	ライフステージ栄養学1		1	講義								1	☆	☆		
	ライフステージ栄養学2		1	講義								1	☆	☆		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論		2	講義								2		○		
	公衆衛生看護管理論		2	講義								2		○		
	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ		2	講義								2		○		
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ		2	講義								2		○		
	公衆衛生看護援助論Ⅰ		2	演習								2		○		
	公衆衛生看護援助論Ⅱ		2	演習								2		○		
	公衆衛生看護援助論Ⅲ		2	演習								2		○		
	公衆衛生看護援助論Ⅳ		2	演習								2		○		
	公衆衛生看護実習Ⅰ		3	実習								－		○		
	公衆衛生看護実習Ⅱ		2	実習								－		○		

(注)1.履修コース欄の○は「看護師国家試験受験資格」「保健師国家試験受験資格(養護教諭二種免許状に必要な科目を含む)」それぞれの取得に必要な必修科目。△印は選択科目。☆印は選択必修科目。

2.2年次後期までに配当された必修科目の単位がすべて修得できない場合は、3年次への進級を「不可」とし、2年次に原級留め置きとする。

＜看護学科＞カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 看護に必要な基礎的知識を身に付け、看護分野における専門的知識・技術を広く学修することができる。
②思考・判断・表現	②DP2 科学的思考力のもと、効果的に看護を実践するため、人々の健康に関する課題を把握し、問題を解決するための思考力と判断力を身に付け、自分の考えを表現する能力を身に付けることができる。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 保健・医療・福祉・看護に関する総合的な視野をもち、専門的知識や技術を獲得するために主体的に学修を続け、多面的な観点から問題に取り組み、保健医療チームの中で協働することができる。

	①DP1	②DP2	③DP3
1 年 生	初年次セミナー、国際事情、くらしの経済、生活と地理、一般化学、生命のしくみ、生活の物理、生活と環境、地球環境と人間、Basic English 1、Basic English 2、総合英語A-1、情報処理演習1、情報処理演習2、日本語表現法1、日本語表現法2、健康科学、スポーツ1、スポーツ2 健康科学概論、情報処理概論、口腔健康管理学、基礎統計処理、基礎化学(有機化学を含む)、基礎生物学、人体構造・人体機能学Ⅰ、人体構造・人体機能学Ⅱ、病理/感染症学、臨床薬理学、栄養学(生化学を含む)、女性の健康科学	ジェンダー論、キャリア入門、心のしくみ、日本国憲法、総合英語A-2、初級フランス語1、初級フランス語2、初級中国語1、初級中国語2 人間関係論、コミュニケーション論、看護学概論、基礎看護技術演習Ⅰ(基礎看護技術)、医療関係法、看護倫理・生命倫理Ⅰ、フィジカルアセスメント(看護生理学を含む)、基礎看護技術演習Ⅱ(日常生活援助技術)、地域看護学概論、老年看護学概論	建学のこころ 基礎看護学実習Ⅰ、地域ふれあい実習
2 年 生	歴史に学ぶ、数学の世界、美術、書道、哲学の方法 基礎看護技術演習Ⅲ(診療援助技術)、保健統計学、成人慢性期看護援助論Ⅰ、成人急性期看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅰ、老年看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅰ、在宅看護概論、ライフステージ栄養学1、ライフステージ栄養学2、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動展開論Ⅰ、老年看護援助論Ⅱ	文学の表現と鑑賞、音楽、Advanced English 1、Advanced English 2、総合英語B-1、総合英語B-2、中級フランス語、中級中国語 食と健康、臨床心理学、社会福祉、公衆衛生学、病態と治療(疾病論)Ⅰ、病態と治療(疾病論)Ⅱ、病態と治療(疾病論)Ⅲ、病態と治療(疾病論)Ⅳ、看護過程、保健行動論、成人看護学概論、小児看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論、栄養教育論	基礎看護学実習Ⅱ
3 年 生	疫学、地域・在宅看護援助論Ⅰ、緩和ケア論、認知症看護援助論、臨床栄養学	保健医療福祉行政論、地域・在宅看護援助論Ⅱ、成人慢性期看護援助論Ⅱ、成人急性期看護援助論Ⅱ、小児看護援助論Ⅱ、母性看護援助論Ⅱ、精神看護援助論Ⅱ、看護管理、医療安全、看護学研究方法論、公衆衛生看護学活動展開論Ⅱ、公衆衛生看護援助論Ⅰ、公衆衛生看護援助論Ⅱ	成人慢性期看護実習、成人急性期看護実習、老年看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、母性看護学実習
4 年 生	災害看護論、公衆衛生看護管理論、国際看護論、家族看護論、チーム医療連携論	公衆衛生看護援助論Ⅲ、公衆衛生看護援助論Ⅳ、看護倫理・生命倫理Ⅱ	(母性看護学実習)、地域・在宅看護実習、健康科学特論、看護の統合と実践実習、看護学研究ゼミナール(卒論)、公衆衛生看護実習Ⅰ、公衆衛生看護実習Ⅱ

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング	科目名	DP	資格コード	①	②	③
1	前期	UA0 0 00 L 1 01 Z	建学のこころ				○	◎
		UA0 0 37 L 2 14 L	初年次セミナー			◎	○	
		UA0 0 83 E 4 01 L	Basic English 1		N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 05 L	総合英語A-1		H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 54 E 5 01 L	情報処理演習1		H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 81 E 5 03 L	日本語表現法1		T4	◎	○	
		HN0 0 49 L a 03 L	健康科学概論		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L b 01 L	口腔健康管理学		N1N2	◎	○	
		HN0 0 36 L c 11 L	人間関係論		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L c 21 L	コミュニケーション論		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 51 L d 01 L	生活と環境			◎	○	
		HN0 0 49 L e 01 L	人体構造・人体機能学Ⅰ		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L g 01 L	看護学概論		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E g 11 L	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 T g 21 H	基礎看護学実習Ⅰ		N1N2	○	◎	◎
	1・2	UA0 0 33 L 2 05 L	国際事情			◎		○
		UA0 0 33 L 2 07 L	くらしの経済			◎		○
		UA0 0 29 L 2 08 L	生活と地理			◎	○	
		UA0 0 43 L 2 10 L	一般化学			◎	○	
		UA0 0 46 L 2 11 L	生命のしくみ			◎	○	
		UA0 0 85 E 4 09 L	初級フランス語1			○	◎	
		UA0 0 82 E 4 12 L	初級中国語1			○	◎	
		UA0 0 49 L 6 01 L	健康科学		H1	◎	○	
		UA0 0 78 P 6 02 L	スポーツ1		H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	

学年	期	ナンバリング	科目名	DP	資格コード	①	②	③
1	後期	UA0 0 83 E 4 02 L	Basic English 2		N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 06 L	総合英語Aー2		H1N2N3T1T3T4T5T6T7	○	◎	
		UA0 0 54 E 5 02 L	情報処理演習2		H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 81 E 5 04 L	日本語表現法2		T4	◎	○	
		HN0 0 43 L a 05 L	基礎化学(有機化学を含む)		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L b 11 L	栄養学(生化学を含む)		N1N2	◎	○	
		HN0 0 46 L a 06 L	基礎生物学		N1N2	◎	○	
		HN0 0 54 L a 01 L	情報処理概論		N1N2	◎	○	
		HN0 0 41 L a 02 L	基礎統計処理		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L d 02 L	医療関係法		N1N2	○	◎	
		HN0 0 49 L d 03 L	女性の健康科学		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L e 02 L	人体構造・人体機能学Ⅱ		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L f 01 L	病理/感染症学		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L f 02 L	臨床薬理学		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L g 31 L	看護倫理・生命倫理Ⅰ		N1N2	◎	◎	
		HN0 0 49 E g 03 L	フィジカルアセスメント(看護生理学を含む)		N1N2	◎	◎	
		HN0 0 49 E g 12 L	基礎看護技術演習Ⅱ日常生活援助技術		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L n 11 L	地域看護学概論		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 T n 12 H	地域ふれあい実習		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 L j 11 L	老年看護学概論		N1N2	◎	◎	○
1・2	後期	UA0 0 36 L 1 03 L	キャリア入門			○	◎	○
		UA0 0 36 L 1 02 M	ジェンダー論			○	◎	
		UA0 0 14 L 2 02 L	心のしくみ			○	◎	
		UA0 0 85 E 4 10 L	初級フランス語2			○	◎	
		UA0 0 82 E 4 13 L	初級中国語2			○	◎	
		UA0 0 78 P 6 03 L	スポーツ2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○		
	1・2・4	UA0 0 32 L 2 06 L	日本国憲法	N2N3T1T3T4T5T6T7	○	◎		
		UA0 0 42 L 2 12 L	生活の物理			◎	○	
2	前期	UA0 0 45 L 2 13 L	地球環境と人間			◎	○	
		UA0 0 83 E 4 03 M	Advanced English 1			○	◎	
		UA0 0 83 E 4 07 M	総合英語Bー1			○	◎	
		HN0 0 49 L b 12 L	食と健康	N1N2	○	◎		
		HN0 0 14 L c 12 L	臨床心理学	N1N2	○	◎	○	
		HN0 0 36 L d 04 L	社会福祉	N1N2	○	◎		
		HN0 0 49 L d 05 L	公衆衛生学	N1N2	○	◎		
		HN0 0 20 L f 03 L	病態と治療(疾病論)Ⅰ 循環・呼吸・消化	N1N2	○	◎		
		HN0 0 49 L f 04 L	病態と治療(疾病論)Ⅱ 腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血	N1N2	○	◎		
		HN0 0 49 L f 05 L	病態と治療(疾病論)Ⅲ 脳神経・運動・リハ・放射	N1N2	○	◎		
		HN0 0 49 L f 06 L	病態と治療(疾病論)Ⅳ 産婦・小児・精神	N1N2	○	◎		
		HN0 0 49 L g 04 L	看護過程	N1N2	○	◎	○	
		HN0 0 49 E g 13 L	基礎看護技術演習Ⅲ 診療援助技術	N1N2	◎	◎	○	
		HN0 0 49 L n 1 M	保健行動論	N1N2	○	◎		
		HN0 0 49 L h 11 L	成人看護学概論	N1N2	◎	◎	○	
		HN0 0 49 L i 11 L	小児看護学概論	N1N2	◎	◎	○	
		HN0 0 49 L i 21 L	母性看護学概論	N1N2	◎	◎	○	
		HN0 0 49 E j 12 L	老年看護援助論Ⅰ	N1N2	○	◎		
	HN0 0 49 L j 21 L	精神看護学概論	N1N2	◎	◎	○		
	2・3	UA0 0 11 L 2 01 L	哲学の方法			◎	○	
UA0 0 91 L 2 03 L		文学の表現と鑑賞			○	◎		
UA0 0 76 E 3 01 L		音楽			○	◎		
UA0 0 85 E 4 11 M		中級フランス語			○	◎		
UA0 0 82 E 4 14 M		中級中国語			○	◎		

学年	期	ナンバリング	科目名	DP	資格コード	①	②	③
2	後期	UA0 0 83 E 4 04 M	Advanced English 2			○	◎	
		UA0 0 83 E 4 08 M	総合英語Bー2			○	◎	
		HN0 0 49 E b 13 L	栄養教育論		N1N2	○	◎	
		HN0 0 49 L d 06 L	保健統計学		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 T g 22 H	基礎看護学実習Ⅱ		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 L n 13 L	在宅看護概論		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L h 12 L	成人慢性期看護援助論Ⅰ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L h 21 L	成人急性期看護援助論Ⅰ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E i 12 L	小児看護援助論Ⅰ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E i 22 L	母性看護援助論Ⅰ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E j 13 L	老年看護援助論Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E j 22 L	精神看護援助論Ⅰ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L l 02 L	ライフステージ栄養学1		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L l 03 L	ライフステージ栄養学2		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 L m 11 L	公衆衛生看護学概論		N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E m 21 L	公衆衛生看護学活動展開論Ⅰ		N2	◎	◎	○
	2・4	UA0 0 21 L 2 04 L	歴史に学ぶ			◎	○	
		UA0 0 41 L 2 09 L	数学の世界			◎	○	
		UA0 0 72 E 3 02 L	美術			◎	○	
		UA0 0 72 E 3 03 L	書道			◎	○	
3	前期	HN0 0 49 L d 11 L	疫学		N2	◎	○	
		HN0 0 49 L d 08 L	保健医療福祉行政論		N2	○	◎	
		HN0 0 49 E n 14 L	地域・在宅看護援助論Ⅰ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E n 15 L	地域・在宅看護援助論Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 T h 13 L	成人慢性期看護援助論Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L h 22 L	成人急性期看護援助論Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E i 13 L	小児看護援助論Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E i 23 L	母性看護援助論Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E j 23 L	精神看護援助論Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L k 01 L	看護管理		N1N2	○	◎	
		HN0 0 49 L k 02 L	医療安全		N1N2	◎	◎	
		HN0 0 49 L k 03 M	緩和ケア論			◎	○	
		HN0 0 49 L k 06 M	認知症看護援助論			◎	○	○
		HN0 0 49 L k 21 L	看護学研究方法論		N1N2	○	◎	
		HN0 0 49 L l 11 L	臨床栄養学		N1N2	◎	○	
		HN0 0 49 E m 22 L	公衆衛生看護学活動展開論Ⅱ		N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E m 31 L	公衆衛生看護援助論Ⅰ		N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E m 32 M	公衆衛生看護援助論Ⅱ		N2	◎	◎	○
	後期	HN0 0 49 T h 14 H	成人慢性期看護学実習		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 T h 23 H	成人急性期看護学実習		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 T j 14 H	老年看護学実習		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 T i 14 H	小児看護学実習		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 T j 24 H	精神看護学実習		N1N2	○	◎	◎
3・4	後期/前期	HN0 0 49 T i 24 H	母性看護学実習		N1N2	○	◎	◎
4	前期	HN0 0 49 T n 16 H	地域・在宅看護実習		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 L k 04 M	災害看護論		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L k 10 M	健康科学特論		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 L m 12 L	公衆衛生看護管理論		N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E m 23 L	公衆衛生看護援助論Ⅲ		N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 E m 24 L	公衆衛生看護援助論Ⅳ		N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 T k 11 H	看護の統合と実践実習		N1N2	○	◎	◎
	後期	HN0 0 49 L g 32 M	看護倫理・生命倫理Ⅱ		N1N2	◎	◎	○
		HN0 0 49 L k 07 M	家族看護論			◎	○	
		HN0 0 49 L k 08 M	チーム医療連携論			◎	○	○
		HN0 0 49 L k 05 M	国際看護論			◎	○	
	通年	HN0 0 00 E k 22 H	看護学研究ゼミナール(卒論)		N1N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 T m 16 H	公衆衛生看護実習Ⅰ		N2	○	◎	◎
		HN0 0 49 T m 17 H	公衆衛生看護実習Ⅱ		N2	○	◎	◎

<看護学科>カリキュラムツリー

ツリーの見方

- (1) *印の科目はいずれかの学年で履修できる。(2)科目名に記載の①②③は、①:DP1、②:DP2、③:DP3、を示す。
(3)科目名に記載されているa・b・cは資格関連必修科目を示す。必修科目の区分は、a:看護師国家試験、b:保健師国家試験、c:養護教諭二種免許を示す(a・b区分の科目も必修)。
(4)科目間の一は履修順位を示す。

科目分類	1年			2年			3年			4年			到達目標
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期		
全学共通科目	人間形成	②③進学のころa ①②③キャリア入門*		①②ジェンダー論* ①②③キャリア入門*	①②ジェンダー論* ①②③キャリア入門*								人間形成 一般教育・芸術・外国語・情報・表現・体育・健康科目から、幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付けている。
	一般教育	①②初年次セミナーa ①③国際事情* ①③くらしの経済* ①②生活と地理* ①②一般化学* ①②生命のしくみ*		①②哲学の方法* ①②心のしくみ* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*bc ①②数学の世界* ①②生活の物理* ①②一般化学* ①②生命のしくみ*	①②哲学の方法* ①②心のしくみ* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*bc ①②数学の世界* ①②生活の物理* ①②一般化学* ①②生命のしくみ*		①②哲学の方法* ①②文学の表現と鑑賞*						①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*bc ①②数学の世界* ①②生活の物理* ①②地球環境と人間*
	芸術			①②音楽*	①②美術*		①②音楽*						①②美術* ①②書道*
	外国語	①②Basic English 1:ac → ①②総合英語A-1:ac →	①②Basic English 2:ac ①②総合英語A-2:ac	①②Advanced English 1 → ①②総合英語B-1 →	①②Advanced English 2 ①②総合英語B-2		①②中級フランス語* ①②初級フランス語1*						
	情報表現	①②初級フランス語1* →	①②初級フランス語2* →	①②初級フランス語1* → ①②中級フランス語1*	①②初級フランス語2* →		①②中級中国語* ①②初級中国語1*						
	体育健康	①②初級中国語1* → ①②情報処理演習1:abc → ①②日本語表現法1 →	①②初級中国語2* → ①②情報処理演習2:abc ①②日本語表現法2	①②健康科学* ①②スポーツ1*:bc →	①②健康科学* ①②スポーツ1*:bc →		①②スポーツ2*:bc						
	基礎関連	①②健康科学概論:ab		①②基礎化学(有機化学含む) ①②基礎生物学 ①②情報処理概論 ①②基礎統計処理:bc									専門科目の学習の基礎作りとなる知識や技術を身に付けている。
	健康と食	①②口腔健康管理学:ab		①②食と健康:ab →	①②栄養教育論:ab								人間の健康について、心理面・栄養面的側面からの理解、そして共通する身体・身体・生物学的存在としての側面を理解するために必要な知識を修得すると共に、個別的な社会関係の中で置かれる生活過程に於いて形成される生活体として、取り巻く社会環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。
	健康と心	①②③人間関係論:ab ①②③コミュニケーション論:ab		①②③臨床心理学:ab									
	健康生活と支援	①②生活と環境	①②医療関係法:ab ①②女性の健康科学:ab	①②社会福祉:ab ①②公衆衛生学:ab	①②保健統計学:ab		①②保健医療福祉行政論:b ①②疫学:b						
看護基礎科目	人体の構造と機能	①②人体構造・人体機能学Ⅰ:ab	①②人体構造・人体機能学Ⅱ:ab										
	疾病の回復と立ち上がり	①②病理/感染症学:ab → ①②臨床薬理学:ab →	①②病理と治療(疾病論)Ⅰ:ab (腫瘍・呼吸・消化) ①②病理と治療(疾病論)Ⅱ:ab (腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血) ①②病理と治療(疾病論)Ⅲ:ab (脳神経・運動器・心臓・放射線) ①②病理と治療(疾病論)Ⅳ:ab (産婦・小児・精神)										

専門科目	基礎看護学	①②③看護学概論ab ①②③基礎看護技術演習I・ab (基礎看護技術) ①②③基礎看護学実習I・ab	①②③看護倫理・生命倫理I・ab ①②③フィジカルアセスメントab ①②③基礎看護技術演習II・ab (日常生活援助技術)	①②③看護過程ab ①②③基礎看護技術演習III・ab (診療援助技術)	①②③基礎看護学実習II・ab ①②③在宅看護論ab ①②③保健行動論ab	①②③成人看護学概論ab ①②③成人急性期看護援助論I・ab ①②③成人急性期看護援助論II・ab	①②③成人看護学実習ab ①②③成人急性期看護学実習ab	①②③地域・在宅看護援助論I・ab ①②③地域・在宅看護援助論II・ab	①②③地域・在宅看護実習ab	①②③看護倫理・生命倫理II・ab	看護学の本質・看護学基礎となる知識・技術・態度を学習するとともに、専門職として倫理的判断を行うための基礎的能力を修得する。
基礎看護学											
地域・在宅看護学											
成人看護学											
小児看護学											
母性看護学											
老年看護学											
精神看護学											
看護の統合と実践											
連携科目											
公衆衛生看護学											

DP① 知識・技術	DP② 思考・判断・表現	DP③ 主体性・多様性・協働性
DPの科目別目標はカリキュラムマップを参照		

4.免許・資格

(1)看護師

1)看護師とは

保健師助産師看護師法の第5条において「看護師とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。」と定められています。看護師は、医療、保健、福祉などの場において、他職種との連携を図り、専門的な知識、技術に基づいて病気や障がいを持つ人々の療養上の世話や診療の補助を行います。また医療チームの一員として、対象者の方々の身体と心の両面をサポートし、すべての健康レベルの人々に対応した健康と福祉に貢献できることをめざします。

2)看護師になるためには

看護師免許(国家資格)を取得するためには、厚生労働省が所管する「看護師国家試験」に合格し、資格を取る必要があります。これは、保健師助産師看護師法の第7条において「看護師になろうとする者は、看護師国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。」と定められているためです。看護師国家試験の受験資格は、文部科学大臣の指定した学校教育法に基づく大学などにおいて看護師になるために必要な科目を修めて卒業した者に与えられます。看護学科では所定の125単位を修得することによって、看護師国家試験の受験資格を得ることができます。

看護師コースの卒業要件

科目区分	資格取得要件
全学共通科目	必修9単位を含む13単位以上履修
学部共通科目	必修2単位を含む2単位以上を履修
看護基礎科目	必修37単位以上を履修
専門科目	必修71単位と学科間連携科目2単位以上を履修
卒業要件単位数	125単位以上

3)看護師の臨地実習

臨地実習施設は医療機関のみならず、在宅、福祉施設(医療福祉センター、心身障がい者施設、老人保健施設)も含み、障がいを持つ子ども(人)とその家族の特徴を理解し、個別性のある生活・看護を学びます。また、医療機関においては、地域医療連携の実際、その部署におけるチーム運営の実際、情報共有や情報保護の実際、生活支援に応えるチームワーク(チームケアカンファレンスなど)の実際を体験することにより、看護専門職としての自己のあり方を省察します。

(2)保健師

1)保健師とは

保健師とは、保健師助産師看護師法の第2条において「厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて保健指導に従事することを業とする者」と定められています。保健師は地域で生活している人たちの健康保持・増進に向けた支援を行い、予防や衛生等の活動を行う仕事です。健康な人も病気を持っている人も全ての人を対象にし、乳幼児から高齢者まで幅広い世代と関わり、健康増進や生活の質の向上をサポートします。保健師は、主に都道府県や市町村の保健所・保健センターなどで行政職として従事する行政保健師、企業などで産業保健スタッフとして勤務する産業保健師、学校などで学生や教職員の心身の健康保持に努める学校保健師に大きく区分されます。

2)保健師資格を取得するには

保健師の資格は、保健師国家試験および看護師国家試験に合格することで得ることができます。保健師国家試験を受験するためには、文部科学大臣の指定した学校などにおいて必要な科目を修める必要があります。保健師国家試験受験資格取得希望者は、あらかじめ第1年次に開講される「日本国憲法」「スポーツ1」「スポーツ2」「基礎統計処理」と第2年次に開講される「保健統計学」を選択し、単位を修得しておく必要があります。看護学科における保健師コースは1学年12名程度とし、第2年次の後期に選抜します。

保健師コースの卒業要件

科目区分	資格取得要件
全学共通科目	必修11単位を含む13単位以上履修
学部共通科目	必修4単位以上を履修
看護基礎科目	必修42単位以上を履修
専門科目	必修93単位と学科間連携科目2単位以上を履修
卒業要件単位数	154単位以上

3)保健師の臨地実習

第4年次に「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」を履修します。「公衆衛生看護実習Ⅰ」においては、地域で生活している人々の健康水準とQOL(Quality Of Life)の向上を目指す公衆衛生看護活動の実践を学びます。「公衆衛生看護実習Ⅱ」では、産業保健活動・学校保健活動が展開される場において、各看護活動の特徴や役割を学びます。また、これら臨地実習に必要な実習費は自己負担とし、所定の期間内に納めなければなりません。

4)保健師コース学生選抜について

看護学科において保健師コースを選択できる学生は12名程度となっており、第2年次の後期に選抜試験を実施します。この12名は、保健師国家試験受験資格取得に必要な科目(表1)を修得している条件を満たした希望者のうち、第2年次終了時までの必修専門科目のGPAと小論文、面接評価の上位者から選抜します。第1年次・第2年次にガイダンスを行い、第2年次1月末頃に志願票提出、3月中旬に選抜、3月下旬に合格者の決定とガイダンスを予定しています。第3年次前期より公衆衛生看護学に関する選択科目を履修し、第4年次に公衆衛生看護実習を履修します。

(表 1)保健師国家試験受験に必要な選択すべき科目

科目区分	授業科目の名称	開講時期
全学共通科目	日本国憲法 2 単位	1 年後期
	スポーツ1 1 単位	1 年前期
	スポーツ2 1 単位	1 年後期
学部共通科目	基礎統計処理 2 単位	1 年後期
看護基礎科目	保健統計学 2 単位	2 年後期

5) 養護教諭二種免許状の取得について

教育職員免許法別表第 2 の規定により、保健師免許を基礎資格として養護教諭二種免許状の授与を受けることができます。保健師免許取得後、各都道府県の教育委員会へ個人申請を行うことで養護教諭二種免許状を取得することができます。そのためには、第 1～2 年次で、「日本国憲法」の 2 単位、「スポーツ 1・2」の 2 単位、「Basic English 1・2」と「総合英語 A-1・A-2」のうち 2 単位、「情報処理演習 1・2」の 2 単位を修得しておく必要があります。

免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目区分		開設授業科目	単位数	配当学年	備考
科目	単位数				
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1・2・4 年	
体育	2	スポーツ1	1	1・2 年	
		スポーツ2	1	1・2 年	
外国語コミュニケーション	2	Basic English 1	1	1 年	
		Basic English 2	1	1 年	
		総合英語 A-1	1	1 年	
		総合英語 A-2	1	1 年	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理演習 1	1	1 年	
		情報処理演習 2	1	1 年	
備考	各科目区分における開設科目をそれぞれ 2 単位以上修得すること。				

6) 第 1 種衛生管理者免許の取得について

保健師免許取得後、各都道府県の労働基準局に個人申請を行うことにより、衛生管理者(第 1 種)を取得することができます。

労働安全衛生法により、常時 50 人以上の労働者を使用する事業者では、衛生管理者免許を有する者のうちから、労働者数に応じ一定数以上の衛生管理者を選任することが義務付けられています。

7) 保健師に従事することにより取得できる資格

- ・健康運動指導士:健康・体力づくり事業財団が実施する講習会受講後受験
- ・健康運動実践指導者:健康運動実践指導者養成校での養成講座受講後、健康運動実践指導者認定試験受験(健康運動実践指導者台帳に登録)
- ・介護支援専門員:介護支援専門員実務研修受講後受験(5 年以上の実務経験)

履修モデル(看護師コース)

		1年次				2年次			
		前 期		後 期		前 期		後 期	
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ※	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	心のしくみ	2				
	芸術科目								
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1	総合英語B-1	1	総合英語B-2	1
		○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
	情報・表現科目	○情報処理演習1	1	○情報処理演習2	1				
		日本語表現法Ⅰ	1						
体育・健康科目									
通学科目共	基礎関連科目	○健康科学概論	2	情報処理概論	2				
				基礎統計処理	2				
看護基礎科目	健康と食	○口腔健康管理学	2	○栄養学(生化学含む)	2	○食と健康	2	○栄養教育論	1
	健康と心	○人間関係論	2			○臨床心理学	2		
		○コミュニケーション論	2						
	健康生活と支援			○女性の健康科学	1	○社会福祉	2	○保健統計学	2
				○医療関係法	1	○公衆衛生学	2		
	人体の構造と機能	○人体構造・人体機能学Ⅰ	2						
				○人体構造・人体機能学Ⅱ	2				
	疾病の成り立ちと回復促進			○病理/感染症学	2	○病態と治療Ⅰ	2		
				○臨床薬理学	2	○病態と治療Ⅱ	2		
						○病態と治療Ⅲ	2		
						○病態と治療Ⅳ	2		
専門科目	基礎看護学	○看護学概論	2	○看護倫理・生命倫理Ⅰ	1	○看護過程	2	○基礎看護学実習Ⅱ	3
		○基礎看護技術演習Ⅰ (基礎看護技術)	1	○基礎看護技術演習Ⅱ (日常生活援助技術)	2	○基礎看護技術演習Ⅲ (診療援助技術)	1		
		○基礎看護学実習Ⅰ	1	○フィジカルアセスメント	1				
	成人看護学					○成人看護学概論	2		
								○成人慢性期看護援助論Ⅰ	2
								○成人急性期看護援助論Ⅰ	2
	小児看護学					○小児看護学概論	2		
								○小児看護援助論Ⅰ	1
	母性看護学					○母性看護学概論	2		
								○母性看護援助論Ⅰ	1
	老年看護学			○老年看護学概論	2	○老年看護援助論Ⅰ	1	○老年看護援助論Ⅱ	1
		精神看護学					○精神看護学概論	2	
								○精神看護援助論Ⅰ	1
	地域・在宅看護学			○地域看護学概論	1	○保健行動論	1	○在宅看護概論	2
				○地域ふれあい実習	1				
	看護の統合と実践								
	学科間連携科目							ライフステージ栄養学1	1
							ライフステージ栄養学2	1	
取得単位数		21		27		30		19	
上限単位数		48				49			

※建学のこころ1単位は上限単位数から除外

[illegible]

履修モデル(保健師コース)

		1年次				2年次			
		前 期		後 期		前 期		後 期	
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ※	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	◎日本国憲法	2				
	芸術科目								
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1				
		○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
	情報・表現科目	○情報処理演習1	1	○情報処理演習2	1				
通学科部目共	体育・健康科目	◎スポーツ1	1	◎スポーツ2	1				
	健康科学	2							
	基礎関連科目	○健康科学概論	2						
			◎基礎統計処理	2					
看護基礎科目	健康と食	○口腔健康管理学	2	○栄養学(生化学含む)	2	○食と健康	2		
							○栄養教育論	1	
	健康と心	○人間関係論	2			○臨床心理学	2		
		○コミュニケーション論	2						
	健康生活と支援			○女性の健康科学	1	○社会福祉	2		
				○医療関係法	1	○公衆衛生学	2		
							◎保健統計学	2	
	人体の構造と機能	○人体構造・人体機能学Ⅰ	2						
				○人体構造・人体機能学Ⅱ	2				
	疾病の成り立ちと回復促進			○病理/感染症学	2	○病態と治療Ⅰ	2		
				○臨床薬理学	2	○病態と治療Ⅱ	2		
						○病態と治療Ⅲ	2		
						○病態と治療Ⅳ	2		
専門科目	基礎看護学	○看護学概論	2	○看護倫理・生命倫理	1	○看護過程	2	○基礎看護学実習Ⅱ	3
		○基礎看護技術演習Ⅰ (基礎看護技術)	1	○基礎看護技術演習Ⅱ (日常生活援助技術)	2	○基礎看護技術演習Ⅲ (診療援助技術)	1		
		○基礎看護学実習Ⅰ	1	○フィジカルアセスメント	1				
	成人看護学					○成人看護学概論	2		
								○成人慢性期看護援助論Ⅰ	2
								○成人急性期看護援助論Ⅰ	2
	小児看護学					○小児看護学概論	2		
								○小児看護援助論Ⅰ	1
	母性看護学					○母性看護学概論	2		
								○母性看護援助論Ⅰ	1
	老年看護学			○老年看護学概論	2	○老年看護援助論Ⅰ	1	○老年看護援助論Ⅱ	1
		精神看護学					○精神看護学概論	2	
								○精神看護援助論Ⅰ	1
	地域・在宅看護学			○地域看護学概論	1	○保健行動論	1	○在宅看護概論	2
				○地域ふれあい実習	1				
	看護の統合と実践								
	学科間連携科目							ライフステージ栄養学1	1
							ライフステージ栄養学2	1	
公衆衛生看護学							◎公衆衛生看護学概論	2	
							◎公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	2	
取得単位数		23		26		29		22	
上限単位数		48				49			

※建学のこころ1単位は上限単位数から除外

看護師国家試験受験資格 必修＝○ 保健師国家試験受験資格 必修＝◎ 養護教諭二種免許状 必修＝○、◎

3年次				4年次				取得
前 期		後 期		前 期		後 期		単位数
								1
								4
								0
								4
								2
								4
								4
								7
								6
◎疫学	2							13
◎保健医療福祉行政論	3							
								4
								12
								15
○成人慢性期看護援助論Ⅱ	1	○成人慢性期看護学実習	2					12
○成人急性期看護援助論Ⅱ	1	○成人急性期看護学実習	2					
		○小児看護学実習	2					6
○小児看護援助論Ⅱ	1							
		○母性看護学実習	2					6
○母性看護援助論Ⅱ	1							6
		○老年看護学実習	2					6
○精神看護援助論Ⅱ	1	○精神看護学実習	2					6
○地域・在宅看護援助論Ⅰ	1			○地域・在宅看護実習	3			10
○地域・在宅看護援助論Ⅱ	1							
○看護管理	1			○看護学研究ゼミナール(卒論)			2	15
○医療安全	1			○看護の統合と実践実習	3	家族看護論	1	
緩和ケア論	1			○健康科学特論	1	チーム医療連携論	1	
○看護学研究方法論	1			○災害看護論	1	国際看護論	1	
◎認知症看護援助論	1							
臨床栄養学	1							
								3
				◎公衆衛生看護管理論	2			21
				◎公衆衛生看護実習Ⅰ			3	
◎公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	2			◎公衆衛生看護実習Ⅱ			2	
◎公衆衛生看護援助論Ⅰ	2							
◎公衆衛生看護援助論Ⅱ	2							
				◎公衆衛生看護援助論Ⅲ	2			
				◎公衆衛生看護援助論Ⅳ	2			
24		12		14		11		161
48				48				

履修の手引き

2025 年 4 月発行

発行: 名古屋葵大学 学生支援センター教学支援部門

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町 3-40

TEL:052-852-9295 FAX:052-852-1173

<https://www.nagoya-aoi.ac.jp/>